

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立山内西小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>①知的な学校【知的好奇心の育成】について 全職員が「授業づくりのステップ123」の「ステップ3」を目指すという共通理解のもと、日々の教育活動やプログラミング教育等の教育実践を行ったことで、児童アンケートの「毎日の授業が分かる」と回答した児童が95パーセントとなった。共通実践を通じた教職員の資質向上を図れたことが、この結果につながったと思われる。今年度も全職員による共通実践を継続して行きたい。</p> <p>②居心地のいい学校【自己肯定感の育成】について 毎日の「山内合言葉」の確認、「思いやりの木」プロジェクトの定期的な取組、人権週間・平和週間の取組を行ったことで、児童アンケートの「学校が楽しい」と回答した児童が91%、「自分や友達のことを大切に思っている」と回答した児童が94%に達した。全職員で共通理解を図って、児童一人ひとりの存在を認め合うようにしたこと、自他の生命を尊重する心や思いやりの心が育まれたと考える。今年度も取組内容の意義を確認し、全職員で共通理解を図りながら教育活動に取り組んでいきたい。</p> <p>③元気な学校【挑戦心の育成】について 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年とは違った形で運動会、走ろう大会等の体育的行事を工夫して実施し、児童の体力向上を図ることができた。また、給食委員会や栄養教諭が放送等で児童に職の大切さを伝えたことにより、児童の食に対する意識が向上し、給食の残量が少なくなったり、児童アンケートの「好き嫌いを気にせずバランスよく食べている」と回答した児童が92%に達したりした。今年度も取組内容の意義を確認し、全職員で共通理解を図りながら教育活動に取り組んでいきたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子
----------	-------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①全職員の共通実践を通じた教職員の資質向上      ②人権教育の更なる充実による児童の自己肯定感の育成      ③体育的行事の工夫による児童の健康・体力づくりの向上</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイルドの成果指標を達成した教師が90%を上回る。 ○単元テストの正答率が80%を上回る。	・「授業づくりステップ123」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 ・「家庭学習のてびき」を全家庭に配布し、家庭への啓発を図るとともに、「授業ノート」や「自主学習ノート」などを掲示し児童の学習への意欲を喚起する。 ○「学力向上だより」の発行を年間3回以上行う。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校が楽しい」と答える児童を90%以上にする。 ○「自分や相手が大切だ」と思う児童を85%以上にする。 ○気持ちのよい挨拶や返事・言葉遣いを意識して行動できる児童を(自己評価)85%以上にする。	・「ふれあい班」を編成して、歓迎遠足や運動会等で異学年交流の機会を設ける。 ・「ふれあい道徳」を年に1回以上全クラスで実施し、学級便り等で保護者に知らせる。 ・人権・同和教育、男女平等教育は全教育課程に位置付け、教育活動の中で子どもと周りの人のつながりや一人ひとりの存在を認め合うようにする。 ・登校班や委員会等で挨拶運動を行い、意欲付けを図る。							池田知、なかまP
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「やまうち合言葉」の「優しい言葉を周りの人」を意識して行動できる児童(自己評価)で90%以上にする。	・「教育相談」「いじめアンケート」を実施し、いじめや気になる児童の早期発見・早期対応に努める。							前田、石丸
	○目標と評価を明確にした道徳科の授業実践	○職員アンケートで「目標と評価を意識した授業を実施できた」と思う職員を90%以上にする。	・校内研究として、各学級で全体研やグループ研を行い、目標と評価について話し合うとともに、授業力の向上を図る。 ・校内研究の後にスキルアップ通信を配布し、職員の意識の向上に努める。							成富、研究推進委員
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・各学級で安全教育について指導する。 ・登校班で歩いていくことを奨励し、交通ルールなど定期的に全校児童で確認をする。 ・自転車点検表を年2回配布し、安全な自転車に乗るようにする。 ・長期休業前には、くらしの話をしたり、地区児童会をしたりして、安全な過ごし方を意識させる。							古川、くらしP
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える児童100%を目指す。 ○朝食をとって登校する児童生徒90%以上を目指す。	・各学級での食育指導を行い、食事の必要性に気付かせる。 ・給食時間の放送を通して、食材の産地や調理方法に関心をもち、食事の大切さに気付かせる。							川久保、からだP
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日)を確実に実施し、18時に施錠する。 ・校務システムを利用して、職員会議等の時間を削減する。							教頭
	○「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	○保護者アンケートで「開かれた学校づくりに努めている」の肯定的な回答を90%以上にする。	・地域と連携した教育活動の様子を、学校HPや学校・学級だより等で定期的にかつ積極的に情報発信する。							教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				◎志を高める教育	◎自らの夢や目標をもち、それに向けて「自分から」「自分で」努力しようとする気持ちを高める教育活動の推進	○児童アンケートで、授業内容が「わかった」「できた」と回答する児童を80%以上にする。	・授業の振り返りを毎時間確実に実施する。			
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上した教師80%以上を目指す。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、連絡会による情報共有をする。							石丸、特支担任、川久保

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--